

令和3年度奈良県公立学校優秀教職員被表彰者名簿

- 1 推薦件数 9件〔内訳 小学校4件、中学校2件、県立学校3件〕
 2 選考結果 9件を表彰
 3 被表彰者名簿

番号	校種	分野	地教委	学校名	氏名	主たる担当	推薦の具体的事由
1	小学校	① 学校教育	奈良市	六条小学校	よしむら やすのり 吉村 泰典	4年学年主任 生徒指導副主任	児童の学習意欲を高めるための教師の授業力向上の取り組み ～ 若手教師の資質向上意欲を喚起するために～
2		① 学習指導	奈良市	都祁小学校	あらい よしゆき 新子 慶行	6年担任 情報係主任	GIGAスクール構想の実現に向けたICT機器の活用
3		② 生徒指導	生駒市	あすか野小学校	たけだ ひろし 武田 昭二	主幹教諭	児童が安心・安全に過ごせる学校を目指して
4	中学校	① 学習指導	上牧町	上牧中学校	えび みのり 江本 美帆	社会科教諭 学級担任(5年) 研究主任	生徒の基礎的な学力向上を目指した教師の授業改善に向けて
5		① 学習指導	吉野町	吉野中学校	くるまに やすのり 車谷 泰典	数学科教諭 学年主任(2年) 教務主任	全教員で取り組む道徳教育の推進について
6	県立学校	① 学習指導	北部	平城高等学校	やまもと だいすけ 山本 大介	数学科教諭 教務・文庫部長	平城高校におけるICTを活用した教員の授業改善の推進について
7		② 生徒指導	南部	十津川高等学校	さかぐち りょうじ 阪口 剛	地歴・公民科教諭 生徒指導部長・舎監長	山間部にある小規模校の特徴を生かした生徒指導について
8	若手・小学校	③ 学校保健	天理市	福住小学校	くるまい かんな 車井 佳奈	養護教諭 食育推進委員会 食物アレルギー推進委員会 不登校等支援委員会 学校安全衛生委員会	小規模校における健康教育への取組について
9	若手・県立	④ 特別活動や部活動等	中部	橿原高等学校	ふじい けんたろう 藤井 謙太郎	国語科教諭(3年担任) 進路指導部	「書店クラブ」が目指すもの ～学校は地域を良くする力になるか、それは生徒を成長させるかに挑戦する～

4 今後の予定

- ・新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、表彰式は中止
- ・令和3年度中に優秀教職員実践事例集を県教育委員会のホームページ上に掲載

令和3年度

奈良県公立学校優秀教職員

表彰候補者

事例概要

1. 吉村 泰典(六条小学校)	児童の学習意欲を高めるための教師の授業力向上の取り組み ～若手教師の資質向上意欲を喚起するために～
2. 新子 慶行(都祁小学校)	GIGAスクール構想の実現に向けたICT機器の活用
3. 武田 昭二(あすか野小学校)	児童が安心・安全に過ごせる学校を目指して
4. 江本 美帆(上牧中学校)	生徒の基礎的な学力向上を目指した教師の授業改善に向けて
5. 車谷 泰典(吉野中学校)	全教員で取り組む道德教育の推進について
6. 山本 大介(平城高等学校)	平城高校におけるICTを活用した教員の授業改善の推進について
7. 阪口 剛(十津川高等学校)	山間部にある小規模校の特徴を生かした生徒指導について
8. 車井 佳奈(福住小学校)	小規模校における健康教育への取組について
9. 藤井 謙太郎(橿原高等学校)	「書店クラブ」が目指すもの ～学校は地域を良くする力になるか、それは生徒を成長させるかに挑戦する～

令和3年10月

小学校優秀教職員表彰候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要
1	<p>よしむら やすのり 吉村 泰典 35歳・男 奈良市立六条小学校 教諭（4年学年主任） 生徒指導副主任</p>	<p>④ 学校教育</p>	<p>児童の学習意欲を高めるための教師の授業力向上の取り組み ～ 若手教師の資質向上意欲を喚起するために ～</p> <p>現任校6年目であり、初任の頃から、授業力向上のために様々な研修会に参加している。特に社会科の研究においては、全国大会などの大きな大会で実践発表を積極的に行い、社会科に対する見識と実践力を磨いてきた。</p> <p>勤務校においては、厳しい家庭環境で登校している児童が多く、そのことが学業不振の一因にもなっており、児童の学習意欲向上のためには、教員の授業力向上が必要不可欠な必須条件であると考えた。そこで、自身が学んだ授業力向上の姿勢を率先して示すことで、若手教員の意識を高める取組を進めており、「校内研修で学んだことを実際に学級で活用することが重要である」という考え方が浸透してきた。</p> <p>また、昨年度より「一人一公開授業」を掲げて全ての先生方が、1年に必ず1度は授業を公開するようにしており、教職員の間には授業力を高めようという気運が盛り上がっている。</p>
2	<p>あたらし よしゆき 新子 慶行 42歳・男 奈良市立都祁小学校 教諭（6年担任） 情報係主任</p>	<p>① 学習指導</p>	<p>GIGAスクール構想の実現に向けたICT機器の活用</p> <p>平成27年にタブレット端末が導入された際には、いち早く学習動画を使った反転学習に取り組み、平成29年からタイ・シラチャの日本人学校に派遣された間にはGoogle社が提供する教育サービスを土台にしてICT機器を使った教育実践を積んだ。令和2年に帰国してからは、国のGIGAスクール構想が打ち出されたこともあり、構想を実現させるべく、学校と併せて家庭でも効果的な学びが保障されるICT機器の活用の仕方について研究を進めている。</p> <p>具体的には各教科の授業で動画を活用することで、児童は自分に適した学習方法を選択しながら学習するようになったり、手書きだと時間がかかるような集約や分析、共有、編集などの作業も、テキストマイニング等を活用することで作業の時間が短縮できる分、児童に考える時間を保障することができるなど、日々進化するICTについて探求を続けている。</p>
3	<p>たけだ しょうじ 武田 昭二 40歳・男 生駒市立あすか野小学校 主幹教諭</p>	<p>② 生徒指導</p>	<p>児童が安心・安全に過ごせる学校を目指して</p> <p>勤務校である、あすか野小学校の教育目標は「一人ひとりが輝く学校」である。その実現のためには、学校が児童にとって安心、安全に過ごせる場であり、力を発揮できる環境であることが必要である。そこで、教諭は「基本的生活習慣を身に付け、豊かな人間関係を築く」ことを目標とする生徒指導に取り組んだ。生徒指導主任として「あいさつ・廊下歩行・掃除」の3つの重点課題を設定し、生徒指導における取組の先導的役割を担った。あいさつについては、家庭の協力も得て、夏休み中に「家族であいさつチャレンジ!」の取組を行った。家庭であいさつができればプリントのイラストに色を塗り、完成したイラストを学校でも掲示するなどして意欲付けを行った。廊下歩行については、児童が走る事が多く危ないと思われる場所に「かめロード」「かたつむりロード」の掲示物を設置した。視覚的な意識付けを行うことで、ゆっくり歩行することをイメージできるようにした。掃除については、「集中して掃除をしよう」というめあてを設定し、児童から出た意見に基づいて行動の具体化を図った。そして、月ごとの「生活のめあて」とこれらの取組とを結び付け、学級会や委員会で自分たちの行動を振り返る場を与えた。これまでの学校から児童にめあてを与え守らせる指導から、児童自らが学校生活を守ることの意義を理解し主体的に課題に取り組む意識を持つことを大切にされた。その結果、全体として学習に落ち着いて取り組む児童、休み時間に友達と元気に運動場で遊ぶ児童、委員会等の仕事に主体的に取り組む児童等、規範意識とけじめをもって活動している児童の姿が見られるようになった。</p>

中学校優秀教職員表彰候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要
4	<p>えもと みほ 江本 美帆</p> <p>33歳・女 上牧町立上牧中学校 社会科教諭 学級担任(5年) 研究主任</p>	① 学習指導	<p>生徒の基礎的な学力向上を目指した教師の授業改善に向けて</p> <p>当該校の生徒は、何事にも積極的に取り組むことができているが、学力向上に結びついていない実情がある。この実情を改善する取組として、授業改善を軸とする以下の取組を本教員を中心に行った。</p> <p>①支援を必要とする生徒への「合理的配慮」の必要性を強く感じ、特別支援教育のコーディネーターと協力し、県内外の事例を参考に「合理的配慮の提供のためのプロセス」を作成した。このことで、生徒の実情を教職員全体が具体的に把握し、より一層適切な支援のあり方を検討する機会が構築された。</p> <p>②各教科担当の課題ではなく、学校全体の課題として捉えて取組を進めるために、講師を招いての研修や教員相互による授業見学と課題提起を実施し、各教員のスキルアップにつなげた。</p>
5	<p>くるまたに やすのり 車谷 泰典</p> <p>36歳・男 吉野町立吉野中学校 数学科教諭 学年主任(2年) 教務主任</p>	① 学習指導	<p>全教員で取り組む道徳教育の推進について</p> <p>車谷教諭は2016年4月から奈良県道徳教育研究協議会に所属し、現在は事務局長を担当している。この奈良県道徳教育研究協議会で吸収した最先端の道徳教材を本校教員に紹介し、学校全体でその実践を行っている。</p> <p>学校全体で様々な道徳の授業実践を行うことにより、教員と生徒の心の距離が近くなり、生徒に自己有用感や自尊感情が育まれてきた。それは、教員が道徳の授業を通して、生徒の良い所を伸ばしていること、生徒一人一人が「全員の先生が見てくれている」という安心感がでてきたことが一因であると考えている。このような成果により、学校全体がより一層落ち着いてきている。</p> <p>学年をまたいだ教員での道徳の授業は、授業参観でも行っている。保護者の皆さんにおいては、「道徳の授業は担任がするもの」という常識を覆した取組に称賛の声が上がっている。それに伴い保護者の学校に対する評価も上がってきており、「学校は全教員で子どもを見てくれている。」という感想が多く聞こえている。また、町内の小学校2校においても本校の取組への関心も高まり、来年度から始まる小中一貫教育校にも取り入れることができる内容だと考えている。</p>

県立学校優秀教職員表彰候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要
6	<p>やまもと だいすけ 山本 大介</p> <p>39歳・男 奈良県立平城高等学校 数学科教諭 教務・文図部長</p>	① 学習指導	<p>平城高校におけるICTを活用した教員の授業改善の推進について</p> <p>教務・文図部長として生徒の学習保障と新たな時代の教員の授業改善の推進に取り組んだ。</p> <p>指導と評価の一体化をより意識した授業改善において教務・文図部が中心となり、各教員をサポートする態勢を築き上げたことで各教員の成績集計等の合理化が進み、生徒の学習到達度のフィードバックだけでなく、教員の働き方改革に結びつくものとなった。また令和元年度末からの新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、教務・文図部長として生徒の学習保障と新たな時代の教員の授業改善の推進に取り組んだ。令和2年度は年度当初より在宅教育期間が続き、動画によるオンラインでの学習を応急処置として展開したが、教務・文図部長として年間の教育課程を見据えた学習計画を綿密に検討し、長期的な展望をもったGoogle workspaceの活用を計画するとともに、ICT活用委員会を機能させ、全教員で取り組む体制を築き上げた。全教員がこのシステムを理解し、活用できるように教員研修を企画し、校内のICT活用委員と連携をとりながら、各教科・科目のオンラインでの学習活動に活かせるような内容とした。在宅教育期間も評価の継続を重視し、紙媒体での課題学習とオンラインでの学習のバランスをとる方向性を全教員で共通認識した結果、生徒の学力保障が可能となった。</p>
7	<p>さかぐち つよし 阪口 剛</p> <p>48歳・男 奈良県立十津川高等学校 地歴・公民科教諭 生徒指導部長・舎監長</p>	② 生徒指導	<p>山間部にある小規模校の特徴を生かした生徒指導について</p> <p>十津川高等学校は全校生徒87名の小規模校であるが、そのうちの約65%が都市部からの生徒で寮生活を送っている。彼らの多くは、不登校や虐待、ネグレクト、発達障害、自傷行為等何らかの問題を抱えて入学している。</p> <p>このような問題を抱えた生徒一人一人に、生徒指導部長として、長期的な視野をもちながらあらゆる機会を通して生徒と会話を重ねるなど、きめ細かな対応を行うとともに心のケアを図るべく生徒に寄り添う丁寧な教育相談の体制を構築した。また、寮の舎監長として、保護者の代わりとなって、生徒の心のケアに努め、生徒にとって安心して生活できる居心地の良い寮となるよう尽力している。</p> <p>さらには、自己有用感の向上を目指し、生徒会活動や部活動、ボランティア活動に積極的に参加するよう働きかけるとともに、地域の活動に貢献することで、地域社会の一員であることを自覚させている。</p>

小学校若手教職員等奨励賞候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要
8	<p>くるまいかな 車井 佳奈 31歳・女 天理市立福住小学校 養護教諭 食育推進委員会 食物アレルギー推進 委員会 不登校等支援委員会 学校安全衛生委員会</p>	③ 学校 保健	<p>小規模校における健康教育への取組について</p> <p>本教諭は初任から6年目の養護教諭であり、勤務校は、H29年度より小規模特認校制度に指定されている。そんな小規模校の養護教諭として、児童・保護者・教職員に開かれた保健室経営を目指し、主に健康教育への参画や教育相談の充実、不登校等支援の推進に取り組んだ事例である。</p> <p>具体的な取組としては、普段の生活調べによる児童の心のつぶやきをキャッチすることから、保健学習や保健指導においてストレスチェックを実施するとともに、ストレスマネジメントやレジリエンスについての啓発を行っている。</p> <p>また、昨年度からの新型コロナウイルス感染症における予防として、保健委員会の子どもたちに呼びかけ、予防対策ビデオ「全集中」を作成し、給食時に各学級に配信した。さらに、教職員にも呼びかけ、自らが企画・制作した「コロナストレス解消法」や「布マスクの洗い方」などのビデオを作成して、コロナに苦しみながら家庭で学習している子どもたちに元気を配信するなど家庭との連携にも注力した。</p>

県立学校若手教職員等奨励賞候補者

No.	表彰候補者	分野	事例概要
9	<p>ふじい けんたろう 藤井 謙太郎 30歳・男 奈良県立橿原高等学校 国語科教諭(3年担 任) 進路指導部</p>	④ 特別 活動 や部 活動 等	<p>「書店クラブ」が目指すもの ～学校は地域を良くする力になるか、それは生徒を成長させるかに挑戦する～</p> <p>令和2年1月、校長からの一言をきっかけに地元書店を部室とし、地域社会との連携、交流から生徒の学び、成長につなげることを目的とした「書店クラブ」のアイデアを実現させ、部活動主顧問として生徒の成長に関わっている。</p> <p>プロジェクトの始動において書店の協力は得られたが、コロナ禍で交流にも制約が出る中、手探りで以下のような活動を始めた。</p> <p>①生徒が書店にいなくても実施できるアンケート調査 ②ポップや書籍の紹介を書店に掲示 ③地域の広報誌への活動内容、書籍紹介などの掲載を継続</p> <p>生徒は、アンケート調査では異なる世代の方々からの回答により新たな考えや感覚を得た。また、来店者の目を引く工夫など地域への発信活動を通して、他者に分かりやすく伝えることを学んだ。この他、報道資料の作成、取材対応やホームページの充実などを通して身に付けたコミュニケーション力、表現力の向上は、めざましいものがあった。</p> <p>校外の様々な年代や職業の方と関わる中で、自分の考えを的確に伝える力が伸び、学校での授業における発表の様子も確実に成長している。現在コロナ禍ではあるが、地域の方とより強いつながりをもって活動を継続的に発展させている。</p>